大阪府感染症発生動向調査週報 (速報) 2025年第41週(10月6日~10月12日)

今週のコメント

~インフルエンザ~ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 6週連続で増加」

第41週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,670例であり、前週比2.6%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.44、1.82、1.26、1.02、1.01である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比2%減の637例で、南河内5.31、三島4.18、北河内4.05、豊能4.00、大阪市南部3.71であった。

RSウイルス感染症は4%減の337例で、大阪市北部2.92、南河内2.31、堺市2.18である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は3%減の233例で、堺市1.65、大阪市南部1.47、南河内1.44であった。

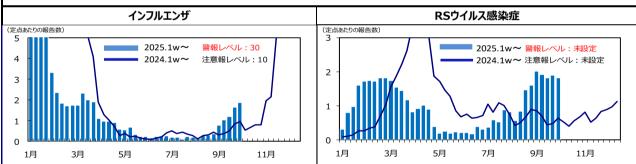
流行性角結膜炎は9%減の53例で、豊能・中河内3.00、泉州1.67である。

伝染性紅斑は8%増の187例で、中河内1.89、南河内1.69、泉州1.45であった。

インフルエンザは13%増の547例で、定点あたり報告数は1.88と第36週以降6週連続で増加がみられている。大阪市西部3.13、南河内2.63、泉州2.48、堺市2.20、北河内2.16であり、大阪市東部を除く10ブロックで定点あたり報告数1を超えていた。

新型コロナウイルス感染症は21%減の747例、定点あたり報告数は2.57で、北河内3.54、泉州3.15、堺市2.92、中河内2.69、大阪市北部2.60であった。

急性呼吸器感染症(ARI)は4%増の11,603例、定点あたり報告数39.87で、南河内57.54、北河内49.03、堺市46.40、中河内43.90、大阪市南部40.12であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2025年 第41週10月6日~10月12日)

	第40週	感染症	2025年		2024年	2025年第41週の			
第41週 の順位			第41週の	前週比	第41週の	年齢別			
	の順位		定点あたり	増減	定点あたり	患者発生数			
			報告数		報告数	最大割合値			
1	1	感染性胃腸炎	3.44	2%減	2.87	1歳_14%			
2	2	RSウイルス感染症	1.82	4%減	0.63	1歳_39%			
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.26	3%減	1.64	6歳,10-14歳_14%			
4	4	流行性角結膜炎	1.02	9%減	0.42	20歳以上_58%			
5	5	伝染性紅斑	1.01	8%増	0.03	4歳_19%			
参考		インフルエンザ	1.88	13%増	0.93	10-14歳_24%			
		(急性呼吸器感染症定点報告疾患)							
参考		新型コロナウイルス感染症	2.57	21%減	1.44	10-19歳_22%			
		(急性呼吸器感染症定点報告疾患)	=:07						
参考		急性呼吸器感染症	39.87	4%増	_	1-4歳 40%			
		(急性呼吸器感染症定点報告疾患)	39.67	〒 702日	_	1 7/35_40 /0			

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection: ARI)サーベイランスが開始となりました。 2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ(定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報)をご覧ください。

第41週のコメント

侵襲性髄膜炎菌感染症(厚生労働省)

~侵襲性髄膜炎菌感染症~ 現時点で大阪府の2025年の累積報告数は7例です

全数把握感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症は、髄膜炎菌 (Neisseria 年別累積報告数 meningitidis) による侵襲性の感染症である。潜伏期は通常2 大阪府は2025年第41调現在 ~10日で、髄膜炎例では頭痛、発熱、髄膜刺激症状、痙攣、意 全国は2025年第40週現在 識障害を示し、敗血症例では発熱、悪寒、ショック、播種性血管 80 20 ■大阪府累計 内凝固症候群 (DIC) を呈する。髄膜炎ベルト (meningitis belt)とよばれるアフリカ中央部で発生が多く、日本では、学生寮 全国累計 15 60 等で集団発生の報告がある。治療には、第三世代セフェム系抗菌 **大阪府の報告数** 5 全国の 40 報告数 薬等が使用される。患者との接触者には、緊急に、リファンピシンの 予防投与が行われる。日本では、2015年より、4価髄膜炎菌 (血清型A、C、Y、W-135) ワクチンの任意接種が開始されてい る。 5 20 大阪府内で侵襲性髄膜炎菌感染症患者が増加しています! 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 (大阪健康安全基盤研究所)

表 2. 大阪府全数報告数(2025年 第41週10月6日~10月12日)

注意:この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ> 【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。)

(我には、) は、 と、											
	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数府内累積
3類感染症	細菌性赤痢	1								1	4
3 検急未進	腸管出血性大腸菌感染症	4								4	183
4 米百尺式 沈小宁	レジオネラ症(肺炎型)	6		1	2	1			1	1	114
4類感染症	レプトスピラ症	1								1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1			1						83
	後天性免疫不全症候群	1							1		75
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1								1	35
5 類感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	1			1						7
	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1		262
	梅毒	12		1		1				10	1,362
	百日咳	23	3	3	6	3	2	1	3	2	2,977
結核	結核 新登録患者数:73名					(内 朋	· 喀痰	塗抹	陽性	21名)
(2025年8月分) (府内累積報告数 766名、内 肺・喀痰塗抹陽性 255名)											

(2025年10月14日 集計分)

年